CKDの推計

60以上	83,929	81.3
50～59	15,080	14.6
40～49	3,424	3.3
30～39	559	0.5
15～29	160	0.2
15未満	40	0.1
合計	103,192	100.0

GFR 60未満の人口
1,920万人
（成人人口の18.7%）

GFR 30未満の人口
418万人
（成人人口の4.1%）

腎臓内科専門医は
3000人以下!!

GFR 15未満のデータには透析患者は含まれていない．
平成17年度末の透析患者数＝約26万人，日本腎臓学会CKD対策委員会疫学WG

Imai E, et al. Clin Exp Nephrol 2007 11（2）156-163. より引用，改変

末期腎不全（非代償期）の治療

血液浄化療法　290,675人（2009年12月31日現在）

- 血液透析　280,819人 (96.6%)
- 腹膜透析　9,856人　(3.4%)

透析患者のうち、12201名が献腎移植に登録（2011年3月31日現在）

腎移植　1,224件（2007年施行）

- 生体腎移植　1037件
- 心停止下献腎移植　163件
- 脳死下献腎移植　24件

慢性腎不全透析導入基準について

Ⅰ臨床症状

1 体液貯留（全身性浮腫，高度の低蛋白血症，肺水腫）
2 体液異常（管理不能の電解質・酸塩基平衡異常）
3 消化器症状（悪心，嘔吐，食思不振，下痢など）
4 循環器症状（重篤な高血圧，心不全，心包炎）
5 神経症状（中枢・末梢神経障害，精神障害）
6 血液異常（高度の貧血症状，出血傾向）
7 視力障害（尿毒症性網膜症，糖尿病性網膜症）

上記1～7項目のうち	点数
3個以上当てはまる場合を高度	30
2個当てはまる場合を中等度	20
1個当てはまる場合を軽度	10

＊注意

年少者（10歳以下） 高齢者（65歳以上） 高度な全身性血管障害合併症のあるもの	10点加算

Ⅱ 腎機能

血清クレアチニン（mg/dl）（クレアチニンクリアランスml/分）	点数
8以上（10未満）	30
5～8未満（10～20未満）	20
3～5未満（20～30未満）	10

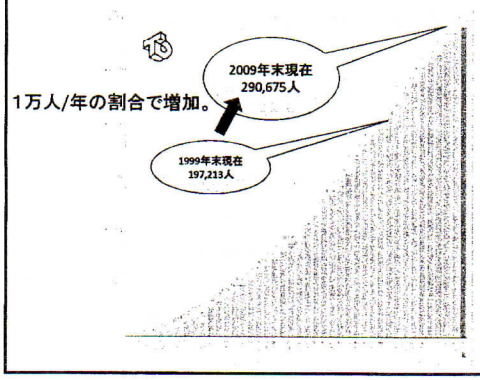
Ⅲ 日常生活障害度

日常生活障害度	点数
・尿毒症症状のため起床できないものを高度	30
・日常生活が著しく制限されるものを中等度	20
・通勤，通学あるいは家庭内労働が困難となった場合を軽度	10

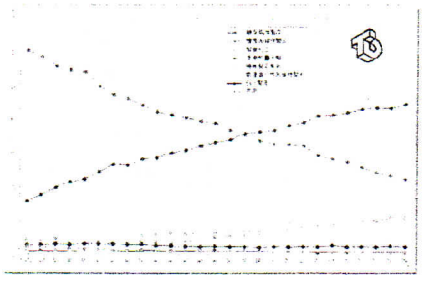
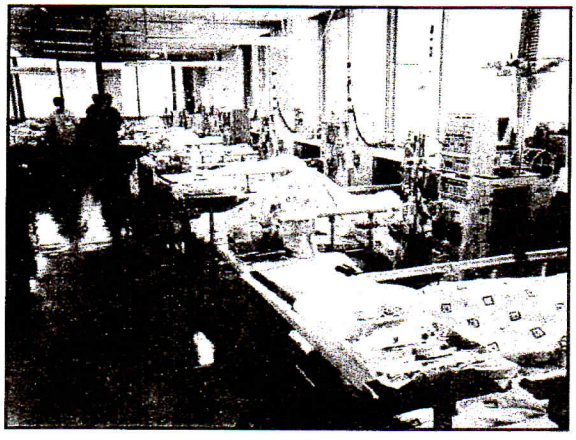
※小児、高齢者、糖尿病性腎症例、悪性高血圧、血管炎による腎不全例では上記基準にこだわらない。

Ⅰ～Ⅲについて点数化し、合計60点以上を透析導入とする。

慢性透析患者数の推移



年別透析導入患者の原疾患の推移



糖尿病性腎症が増加、慢性糸球体腎炎は減少傾向。